

「臨床心理学」における教員養成への貢献

教育学部・相模健人

1. 授業の基本情報

平成28年度より学部改組されたことにより、従来、学校教員養成課程「教育臨床心理学」として行っていた科目を小学校サブコース小学校教育拡充科目「臨床心理学」として新たに開講した。これにあたり、教職に就いたときに役立つよう講義内容について実践的内容を多く盛り込んだものとした。この授業内容について学生に尋ねるアンケートを行ったものを報告する。

アンケートは最終回の授業時に行った。登録受講者53名の内、最終回に出席した47名が回答した。内容は本授業について①「あなたが同級生、後輩にこの授業を薦めるとしたらどんなことを言って薦めますか？」②「あなたが同級生、後輩にこの授業を薦めないとしたらどんなことを言って薦めませんか？」を尋ね、自由記述で回答してもらった。

2. 授業評価の内容

①薦める理由

前述の①の回答については「教育相談に活かせる実践とその効果を学べる」（15人）といった意見が最も多く、教職に就いた際に生かしていきたい意見が見られた。

次いで実際に「面談をしながら学べるから分かりやすい」（9人）と授業全体を通してワークやロールプレイを通して、学べる形式を取り入れていることも評価されている。

他に多い意見としては「多様なカウンセリング方法が分かる」「そもそも人とのコミュニケーションの上で大切なことを学べる（話し合いやコンプリメントすることなど）」（どちらも3名）といったより幅広く授業内容を活かしていこうという意見も見られた。

少数意見としては「将来活用できる能力を身につけることができるだけでなく、今までに自分のとってきた対人行動が大丈夫だったか分析することもできる」「将来、学校現場はもちろん、職場の同僚との関係性を

上手に構築することができる」とすすめる」「カウンセリングの方法を理解できるから将来学校で児童の相談を聞いたり、問題を解決しなければならなかったりするのだから受けるべきだ」「カウンセリングについて（心理について）学べて楽しいし学校現場で役立つ！」「実際にカウンセリング、実習を行うことができる」「実践の場が多く、カウンセリングのコツを着実に身につけられる」「受ける前と受けた後では成長が見込める」といった意見が見られた。

②薦めない理由

同じく②の回答については「グループワークが苦手だったら苦痛かもしれない」（11名）といったグループワークに関する意見が最も多かった。ワークを中心とした授業のため、ある程度仕方がないとは言え、実施方法には改善が求められる。

次いで「毎週課題あって大変かも…」（8名）といった毎週課題があることへの意見が多かった。これについては授業評価の上で必要と考える。

次いで多かったのが「特になし」（7名）であり、逆説的に評価されているということと考える。

他に多い意見としては「上級生が他授業と比べて多くおられるのでワークで自分だけ1年生になることもある」「内容の難しいものもある」（いずれも5名）であり、授業形式、内容に関するものであった。

3. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

これらについては「自分が教員になった時、「話を聞く」ことや「適切なアドバイスをする」ためのコツやポイントを学べる」「教育実習後に受講すると生徒指導等のイメージが付きやすく分かりやすい」「生徒だけの関わりではなく、保護者との接し方も勉強できる」といった学校での具体的実践を想定したものが多く見られている。